

「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」  
～ICTを活用した主体的・協働的な学びのあり方～

## I 研究の内容

### 1 研究の具体的内容と方法

#### (1) 研究の内容

ア ICTを活用した学び合い（アクティブ・ラーニング）

- ・ICT機器の効果的な活用を工夫する。
- ・実践を公開し合い、授業力を高める。
- ・各教科への活用学習の取り組みを行う。

イ 学習環境づくり

- ・学級力づくり…学級力向上プロジェクトの活用，Q-Uの活用
- ・学習習慣の確立…学習規律の徹底
- ・さわやかタイムや放課後等の有効活用，家庭学習の充実

#### (2) 研究の方法

ア 基本的には全体会での研究を行うが、内容によってはブロック（低学年、高学年）に分かれて研究を深める。

イ 研究授業をブロックごと1本行う。（指導主事招聘）

ウ 一人一実践の授業公開を行う。（ブロック内で参観し合う。）

エ ICT機器の活用，コミュニティースクールについて，講師を招聘して学習を深める。

オ 特別な支援を要する児童への対応，支援体制について学習を深める。

### 2 研究実践

#### (1) 理論研究【6月，8月】

ア 「ICTを活用した授業や活用の工夫について」

講師 総合教育センター指導主事 齊藤和裕先生

イ 「タブレット端末を活用した授業づくりについて」

講師 山梨県立大学 国際政策学部 教授 八代一浩先生

ウ 「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について」

講師 山梨大学大学教育センター教授 学長補佐 日永龍彦先生

エ 「特別支援教育について」

講師 岡 輝彦教頭

#### (2) 研究授業【10月，11月】

ア 第4学年体育科「マット運動」

授業者 内藤 健教諭

イ 第2学年生活科「あそびのたつ人あつまれ」授業者

T1 那須 美佳教諭

T2 樋口 明美教諭

## Ⅱ 成果と課題

### 1 成果

- (1) 学習活動の中で、ICTを媒介のひとつとして子どもたちの教え合いや学び合いができた。
- (2) ICT機器を利用して、試行錯誤しながら教え合う姿が見られ、子どもたち同士の関わり合いが見られた。
- (3) ICTの効果や特性（資格化，焦点化，共有化，再現性など）を生かした学習活動により，学習意欲の高揚，思考や技能習得につなげることができた。
- (4) ICTを効果的に活用する方法をさぐることができ，主題に迫ることができた。
- (5) 仮説の検証のために，授業において資料や児童の考えなどを電子黒板で提示するなど様々な場面でのICTの活用方法を考えられた。子どもたちは，より関心をもって学習に臨め，実際に効果的であった。
- (6) ICTの活用方法や操作方法，コミュニティースクールなど講師を招いての学習会により，学ぶことができた。また，職員同士の教え合いや情報交換により，学び合うことができた。

### 2 課題

- (1) 児童の変容は，児童の実態を踏まえながら，具体的な姿がイメージできるようにしたい。
- (2) ①edutab（エデュタブ）を授業にどう生かすか ②iPadの，どんなアプリをどんな授業のどんな場面で活用するか ③ICTの活用で，どのようにアクティブ・ラーニングをさらに活性化させるのか
- (3) 家庭学習の充実では，個人差や内容などの改善，チェックや成果が見えやすい方法など考えていきたい。
- (4) 学級力向上プロジェクト，Q-Uの活用について，学級経営や児童理解，児童指導へ具体的に生かしていきたい。
- (5) さわやかタイムや放課後等の有効活用について，基礎学力の向上，個別指導など改善をしていきたい。また，学年ごとの取り組みについて情報交換する機会を設けたい。
- (6) 一人一実践の授業公開を短時間でも参観できるように自習体制を整え工夫していきたい。

## Ⅲ 成果物

- 1 研究授業，一人一実践の授業案
- 2 家庭学習の手引き（低，中，高学年家庭配付用）
- 3 学習規律
- 4 学習会に招聘した講師からご提供いただいた資料

（研究主任 藤波 貴）